



TITLE:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 29

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 29. 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 1955, 29: 57-61

ISSUE DATE:

1955-02-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186850>

RIGHT:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会
水族館 月 報

No. 29

1955. 1月 (2月3日)

録 事

新しい年を迎えて、デフレで観光客も少ないのではないかと案じられたが、案外に正月3が日における来館者の数は約3900名で戦後最高の記録で、出だくは良好と思われた。上旬はどのようにわけか団体客が多く、下旬には少なかったけれども、大体一年を通じて毎月の入場者数に大した変動のない傾向が見られるのは、比較的経営が安定した証拠とも見られよう。

先月の水槽室改造によって、各水槽の水温が大体平均した。後で示すように保温しない水槽でも11.5~12.5度で殆んど較差なく、暖冬のせいもあるが、低温のため魚の死ぬようなことはなかった。これで一先づ安堵の状態である。

従業員の待遇改善については本年度の委員会の決議にもとずき、今月一般公務員の号級表に則つて、全員に対し定期昇給を実施した。なお水族館のマークを仮に定め、これと表示した作業衣袴及び事務服を支給した。

業 務 概 況

◎ 1月の入場者数

区 分	水族館発売数		明光バス発売数		合 計	
	本月分計	累 計	本月分計	累 計	本月分計	累 計
大 人	4651	47425	13327	105040	17978	152465
小 人	390	4295	275	2318	665	6613
団 体	3092	63634			3092	63634
合 計	8133	115354	13602	107358	21735	222712
無料入場者					23	1302

◎ 1月の収入

(累計)

観覧券売上金 ----- 414,696 ----- 4013,542

雑収入 ----- 195 ----- 21,572

12月までの繰越 387,717

計 802,608

◎ 1月の支出

一般経費

費目別	金額	累計	備考
人件費	52,745	573,159	
光熱費	17,343	113,460	
消耗品費	2,135	47,983	
備品費		28,930	
修理費		72,775	
資料費	14,780	167,890	
厚生費	5,160	27,120	
借入借料費			
諸税公課		3,851	
雑費		14,760	
通信運搬費	1,220	162,29	
研究費		200,00	
旅費	500	1320	
合計	93,883	1,087,477	

水族館改善費

項目	金額	累計	備考
合計	—	314,724	

実験所費

費目別	金額	累計	備考
合計	—	116,4520	

博物館費

費目別	金額	累計	備考
人件費	4,450	42,685	
消耗品費	—	170	
修理費	—	6,330	
備品費	—	22,765	
旅費	—	460	
合計	4,450	72,410	

積立金

費目別	金額	引出高	現在高	備考
ベースアップ資金	9,100		169,200	
賞手 "	9,100		48,328	
厚生 "	15,000		7,222	
災害時予備金	45		629,856.50	たふし資金5,000
金銭費積立金	—	5,000	20,865	南氏返済1,000入
積立基金	69,116		668,906	
合 計	88,861	5,000	1,544,377.50	

支出合計

		(黒 計)
一般経費	93,883	1,087,477
水族館改善費	—	314,724
実験所費	—	1,104,520
博物館費	4,450	72,410
積立金	88,861	919,358
計	187,194	3,498,489
1月末現在高	615,414	
支出黒計	3,498,489	

水族館記事

- ◎ 今月よりツボアミ漁業が始ったので、ドチザメ、シロザメ、ガンギエイ、イシダイ、ゴオイカ、マツカサウオ、等多くの魚類が手に入りはじめたが、その多くが網によって皮膚や鱗がすれ、そこなわれるので、水槽に入れても、あまり長くもたないのは残念である。
- ◎ ツボアミによって入った珍しい魚としては、ツチホゼリ（25～28日間生存）、テンゲダイ（23日～29日生存）、セトダイ（28日～）等が上げられる。
- ◎ ヤギ（海楊）の類も19日多数もたらされ、その中に紀伊海岸で始めて記録されるものもあった。しかしその多くは皮層が剥離されて、水槽中で長く飼うためには完全なものでなければ難しい。
- ◎ 13日南部町界より大きなミシキエビが一匹入り、現在N0.26水槽に3匹收容中。
- ◎ アオリイカが全部死に、これに代ってゴオイカが14日より相次いで7匹入ったが、ひれが損じて採れるので、現在3匹が残っている。

- ◎ 例年にはらい早春の景物であるタカアシガニの入手を塚の浜本氏に依頼し、併せて網にかかる底棲動物を何でも保存しておいてもらうよう依頼した。
- ◎ 先月来白斑病を生じたエビスダイとウマズラハギに対するメチレンブルー療法が効を奏し、約2週間の治療の結果完全にはおって再び観覧客に美姿をお目みえすることになった。

資 料

◎ 1月の気象

	上 旬	中 旬	下 旬
晴天日数(21)	6	6	9
気 温(℃)	$\frac{7.9 \sim 11.0}{8.6}$	$\frac{5.0 \sim 11.8}{8.2}$	$\frac{7.5 \sim 11.5}{9.46}$
水 温(℃)	$\frac{12.3 \sim 15.1}{13.5}$	$\frac{10.7 \sim 14.7}{12.8}$	$\frac{11.7 \sim 14.2}{12.6}$
比 重	$\frac{25.5 \sim 26.0}{25.7}$	$\frac{25.2 \sim 26.5}{25.9}$	$\frac{25.7 \sim 26.0}{26.08}$

但し(気温は南水槽室で10時に測定
水温比重)はNo.25水槽

◎ 冬期における各水槽の水溫調査結果

測定日時: 1月18日 12時45分~13時(もっとも寒いと思われる日)

天 候: 曇, 気温 8.7℃

南水槽室

窓際中水槽 Nos.1~21 12.5~12.8°
 海亀水槽 No.22 18.5° (保温装置)
 中央流し No.23 12.3° (バットの中心)
 俯瞰水槽 No.24 12.4°
 透視水槽 No.26 13.3°
 " No.27 16.3°
 " No.28 19.5°
 玄關浅水槽 No.24 12.4°

No.28水槽上に保温装置があって温められ、水は26槽に流れて流れる。

北水槽室

北側水槽 Nos.30~35
 (外気温は) 12.0~12.3°
 南側水槽 Nos.36~38
 (外気温は) 11.5~12.1°

屋外水槽

中庭予備水槽(蓋付) 11.1~11.8°
 南側馴置水槽(蓋付) 12.1°
 海亀プール 10.2°

◎ 冬期における飼養動物種数

春季・夏季における場合と比較するために冬季の場合を調べて見た(1955年1月20日調)。飼養水族の多くは年間を通じて大して相違はないが、冬季に比較的多くはいるものを種数の次に括弧して示す。(No.21, p.12参照)

海綿動物 1

腔腸動物 10 (ヤギ, ベニヒモイソギンチャク等)

甲殻類 25 (セエビ, ニシキエビ, ゴシキエビ, セミエビ, タカシガニ, 大形の
エビ類)

軟体動物 14 (コウイカ, アオリイカ等)

棘皮動物 8 (マナマコ, オニナマコ等)

魚類 47 (シオサイフグ, ウマズラハギ, アイゴ, イシダイ, ハヤチ,
マツカサウオ, アカエイ, ドクザメ, シロザメ等)

来 訪 記 録

永江興三君・大森嘉雄氏 (近鉄事業局長・総支配人) —— 水族館設置
計画のため。(1.23)

昭和30年2月3日発行 (No.29)

編集兼 内 海 富 士 夫
発行人

発行所 瀬戸臨海実験所振興会
和歌山県・白浜町
瀬戸臨海実験所内
(電話白浜温泉515)